

製品名: GABAA R δ ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11239**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	51kDa

抗原情報

遺伝子名	GABRD
別名	GABRD; Gamma-aminobutyric acid receptor subunit delta; GABA(A) receptor subunit delta
遺伝子 ID	2563.0
SwissProt ID	O14764
免疫原	抗血清はヒト GABRD 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 141-190

背景

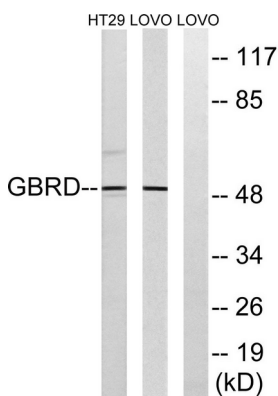
γ -アミノ酪酸 (GABA) は哺乳類の脳における主要な抑制性神経伝達物質であり、リガンド依存性塩素イオンチャネルである GABA-A 受容体に作用します。これらのチャネルの塩素イオンコンダクタンスは、GABA-A 受容体に結合するベンゾジアゼピンなどの薬剤に

よって調節されます。GABA-A 受容体は一般に五量体であり、 α 、 β 、 γ 、 δ 、および ρ の 5 種類のサブユニットから構成されています。この遺伝子は δ サブユニットをコードしています。この遺伝子の変異は、熱性けいれんを伴う全般てんかん 5 型の感受性と関連付けられています。この遺伝子には選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが報告されていますが、その生物学的妥当性は未だ確立されていません。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月]、疾患：GABRD の欠陥は、熱性けいれんを伴う全般てんかんプラス 5 型 (GEFS+5) [MIM:604233] の感受性の原因です。熱性けいれんを伴う全般てんかんプラスは、不完全浸透と大きな家系内変動を伴うまれな家族性疾患です。患者は、時に 6 歳を超えても持続する熱性けいれんや、様々な無熱性けいれんの型を呈します。GEFS+ は、熱性けいれん、6 歳以上の発熱によって引き起こされることが多い全身けいれん、および部分けいれんを併発する疾患で、重症度は様々です。機能：脊椎動物の脳における主要な抑制性神経伝達物質である GABA は、GABA/ベンゾジアゼピン受容体に結合し、必須の塩素イオンチャネルを開口することで神経抑制を媒介します。類似性：リガンド依存性イオンチャネル (TC 1.A.9) ファミリーに属します。サブユニット：通常は 5 量体です。GABA(A)受容体鎖には、 α 、 β 、 γ 、 δ 、 ρ の 5 種類があります。

研究分野

神経活性リガンド-受容体相互作用;

画像データ



GABRD 抗体を用いた LOVO 細胞および HT-29 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。